

案内

今週の聖句 (1月19日～)

「主があなたの永遠の光となり あなたの嘆きの日々は終わる。」(イザヤ書 第60章20節)

解説:「いつまで」ですか、「なぜですか」と、私たちは日常の生活において嘆きの声を上げることがあります。それは、たとえ「つぶやき」のようなものであっても、神はしっかりと聞いてくださいます。預言者はいまだ復興していないエルサレムの都に生きる人々の心の中に同じ「つぶやき」を聞いたのです。そして、困難な状況は決して永遠に続くものではないと告げました。私たちの「嘆きの日々」には、必ず終わりがあがるのです。

今週の聖句 (1月26日～)

「青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ。」(コヘレトの言葉 第12章1節)

解説:人間の人生には春夏秋冬があります。青春の時、働き盛りの夏の時期、経験を積んで深く人生を省みる秋の時、そして年を重ね死に向かう冬の時期です。どの時期でも、神を知ることができます。しかし、「青春の日々」は最も多感な時です。葛藤が多く揺れ動く時期だからこそ、一番大切なことを学び得るのです。ある人は「根源的信頼感」は特に幼少期、あるいは若いときにこそ形成されると言いました。神への信頼も同じだと思います。

オルガニスト養成講座受講生発表会

相模原キャンパス

日時 1月17日(土) 15時

場所 ウェスレー・チャペル

青山キャンパス

日時 1月24日(土) 14時30分

場所 ガウチャー記念礼拝堂

大学卒業礼拝

日時 3月25日(水) 9時

場所 青山キャンパス ガウチャー記念礼拝堂

卒業記念パイプオルガン・ミニコンサート

日時 3月25日(水) 12時40分～13時、15時40分～16時

場所 ガウチャー記念礼拝堂

演奏 作井清雅子(本学オルガニスト)

洗礼を受けられた方へ

本学在学中に、教会で洗礼を受けられた方は、各キャンパス宗教センターにお申し出下さい。

青山学院大学礼拝週報

2015. 1. 12.
1. 19.
1. 26.

公現節第2～4週

No. 33～35合併号

教会史の人々 [18]

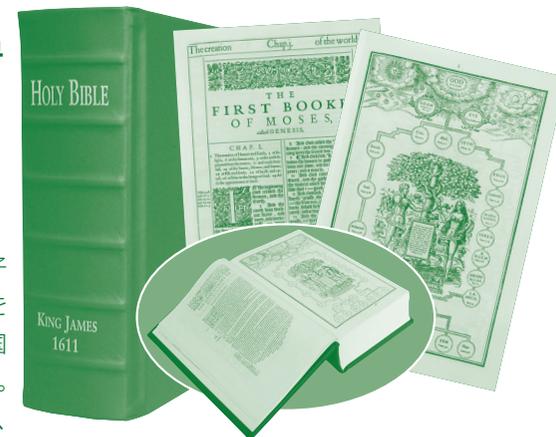
「三浦 綾子」

(1922～1999)

北海道の旭川に生まれた三浦綾子は第二次世界大戦中、日本の勝利を固く信じる小学校教師として軍国主義教育にすべてをささげました。しかし戦後そのことを深く後悔し、教師を辞職。13年に及ぶ挫折感と病苦の中でキリスト教と出会います。

ちなみにこの激しい青春の日々の葛藤は「道ありき」で感動的に描かれています。

1952年にプロテスタントの洗礼を受けた彼女は、聖書が語る希望を伝えたいとの思いから1964年朝日新聞懸賞小説に応募。これに入選した作品が『氷点』でした。日本文学で初めて「原罪」という極めてキリスト教的なテーマを扱ったこの作品は、その後人々に長く愛読されることとなります。その後も夫である三浦光世の支えを受けながら、庶民の立場から「人間はどう生きるべきなのか」を生涯鋭く問い続けました。聖書につながりながら生み出された彼女の多くの作品は各国語に翻訳され、キリスト者のみならず人生に苦しむ多くの人々を今日も慰め、また力強く励まし続けています。



キング・ジェームズ版英語聖書復刻版(宗教センター蔵)

今年度の主題聖句

神から受けた純真と誠実によって

(コリントの信徒への手紙 二 第1章12節)